
F U K E Z U R A H i S c h o o l ! 変態野郎目黙示録

緋色由衣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

F U K E Z U R A H i S c h o o l ! 変態野郎目黙示録

【Nコード】

N 7 2 9 4 J

【作者名】

緋色由衣

【あらすじ】

フケ面で太め、そしてオタク趣味でロリコンな高校生後園克也。そんな彼（と周りの人々）が引き起こす、てんかれっ！から派生した、オリジナルギャグストーリー！
女っ気 少ないです。
下ネタ 生々しいです。
恋愛要素？ 皆無です（主役がフケ面なため）。
そんなムサくて、暑苦しい学園青春ドラマをどうぞ！

作者は文章構成能力に乏しいです。

可能な限り改善していくつもりですが、至らぬ所もあると思います。

その辺りは御容赦下さい。

2010/2/6

緋色由衣

変態野郎物語始動！（前書き）

どうしても書いてみたくて書きました。

一応設定はてんかれっ！の世界の不人気漫画ですので、話の繋がりはありません。

ですからてんかれっ！を読んでいる方にも問題なくお楽しみ頂けます。

いえ、もちろん読んで頂けたら嬉しいんですが、性転換とか苦手な方もいらっしやいますからね。

という訳で、未長くお付き合い頂けたら幸いです。

変態野郎物語始動！

この物語はフィクションです。
だからこの物語に登場する人物、出来事、場所などは全て架空のも
のです。

もし、似たような人物や出来事があっても、それは君の気のせいな
ので気にしてはいけない。

俺の名前は後園克也。
のちそのかつや

趣味はアニメ鑑賞と読書（主に漫画）、パソゲー。

体型はやや（ここ重要）太めながらパワーには自信がある。

あえて言っておく。

俺は断じてオタクではない。

ただ、俺の崇高たる趣味が何故か周りからは否定的にとられている
のだ。

そんな俺もこの間中学を卒業し、明日から高校生になる。

しかしこの春休み、俺は怪我でろくに遊べなかった。

理由は中学の卒業式の日にちょっとしたイタズラを仕掛けたら、会
場全ての人間からフルボッコにあったのだ。

…ええいっ！

思い出すのも忌々しい！

俺はただ、卒業生退場の時の曲をこっそり入れ替えて、逆シ〇アの
BGM『出撃』にしただけだというのに。

まあ怪我也あらかた治ったし、明日からは高校だ。

過去の事は忘れて未来に生きるか！

今日は欲しかったオカズアイテムも手には入ったしな
ぐふふ…。

今夜はお楽しみだ！

背の低い少年「オマエは今日からウルモフ大佐だ。」
克也「は？」

背の低い少年「だからオマエは今日からウルモフ大佐だと言っているんだ！」

なにこのカオスな会話？

高校の入学式も終わり、帰宅の途につこうとしたところ、いきなり後ろから背の低い（推定150cm）童顔な少年から声をかけられた。

ウルモフ大佐？

007ゴールオンアイか？

今時の子供にや分からんだろ？

チビな少年「自己紹介が遅れたな。」

俺の名前は和泉尋、この暁学園いずみひろの新生だ。」

克也「あ…ああ。」

ご丁寧にどうも。

俺の名前は後園克也。

あんたと同じ暁学園の新生だ。」

そう言った途端、何故か場の空気が凍った。

ヒロ「な…、なにいいいい！！！」

騒がしい奴だな。

克也「何をそんなに驚いている？」

ヒロ「新生だと…。」

信じられん…。」

まあ、俺はよく大人っぽいと言われるからな。

ヒロ「絶対24留はしてるかと思ってたのに…。」

つておい！

いくらなんでもそれはないだろ！

24留で39歳じゃねーか！

俺が中年に見えるのか！？

ヒロ「どう見ても。」

克也「……………」

さいですか…。」

ヒロ「まあいいや。」

新人生なら同じクラスになるかもな！

そんなときやよろしくウルモフ大佐！」

克也「ああ。」

よろしくたのむなヒロ。」

ヒロ「初対面でいきなり下の名前とは図々しい奴だな。

まいつか。

じゃあな！」

ヒロ自転車に乗っては去っていった。

ヒロよ…。」

初対面の相手にいきなり意味不明なあだ名をつけるほうがよっぽど
図々しいと思うんだが…。」

だが、悪い奴では無さそうだ。

明日から退屈はしなくてすみそうだな。

俺の高校生活が今始まる。

変態野郎物語始動！（後書き）

ご意見、感想、ご指摘お待ちしております。

変態野郎出陣！（前書き）

ども、緋色由衣です

内容が薄いですが、第2話投稿します。

感想文くれた方ありがとうございます。

とても励みになりました。

これからも頑張ります！

変態野郎出陣！

私立 暁学園。

特徴、馬鹿高校。

数多くの（いろんな意味で）問題児が集まる、あまり関わりたくない集団

と、というのが周りの評価らしい。

そんな場所に俺が入学した理由は、勉強したくないからだ。

自慢じゃないが俺の偏差値は60近くある。

俺自身、歩いて5分のところにある学校に行くつもりだったさ。

しかし、地元では俺の性格が割れているせいか、入学拒否を食らってしまった。

全く、小学校に潜入する事の、一体何がいけないのだ！（犯罪です）

おかげでただでさえ低かった周りの評価が最低ライン割ってしまったではないか！

そんな事を考えているうちに教室の目の前まで来ていた。

1 1か…。これから1年間世話になるぞ。

ガラッ。

克也「……………」

ピシャンッ！

なんだ今のは…。なんか昨日会った奴とか、明らかに小学校低

学年な美少女とか、某格ゲーでヨガとか手足伸ばすっぽい人のそっ

くりさんとか、パンダとかいるんですけど…。

昨日のチビ、まだまともな部類だったんだな…。

ヒロ「どうした？ウルモフ大佐。」

教室に入らないのか？」

！？

なんだ！？

なぜヒロがここに居る!?

さつきヒロが教室にいるのを確かに俺は見たのに、なんで俺の後ろにいるんだ!?

ヒロ「世の中には知らない方が幸せな事ってたくさんあるんだよ。」
答える気は無いのね。

ヒロ「それよりもさつきと教室に入るぞ。」

のっけから遅刻なんて嫌だからな。」

確かにそうだな。

俺も第一印象位は良くしたい。

覚悟を決めて教室に入る。

見れば見るほど混沌とした空間だな…。

まともな高校生に見える生徒がほとんどいないではないか。

ヒロ「ウルモフ大佐。」

貴様も十分その仲間だぞ。」

お前もな。

ていうか、俺はパンダと同類扱いなのか!?

畜生と同じ扱いは、俺の人権どこいった!

ヒロ「変態に人権は無い!」

ちよつと容赦無さ過ぎではありませんか…?

そんな事を言っている内に、また教室の扉が開いた。

克也「……………」

ヒロ「すげえ筋肉!」

そこには、ご立派すぎる筋肉を誇る、海パン一丁のボディビルダー

のオッサンがいた…。

ボディビルダー「おはよう諸君!…!!」

私は君たちの担任である伊集院いじゅういん天あまねだ!…!!

たまに筋肉が暴走してしまうが、これから1年よろしく頼む(笑)」

筋肉の暴走って何!?

そもそも海パン一丁の男が教師になれるの!?

しかも最後の(笑)も意味不明だし!…!!

生徒達『よろしくお願いしまーす!!!』

なに普通に受け入れてるのあんたら!

誰でもいいからツッコミ入れようよ!

しかも先生、オイル塗りすぎて、動く度にオイルが床にタレてきてますよ!

しかも1人1人握手までしてるし!

あんたら順応するの早すぎでしょ!

……この学園がいろいろ問題になってる理由が分かった気がする……。

しかし俺はまだ知らなかったんだ。

こんなの全く問題にならないたくさんの悲(喜)劇 が待ち受けている事を……。

変態野郎出陣！（後書き）

感想、ご指摘、レビュー等お待ちしております。

変態野郎の自己紹介（前書き）

ども

作者です

相変わらず扱いの酷い克也ですが、今後も改善してあげる予定は0です。

あと、ちょっとだけヒロの秘密が分かつちゃうかも？

変態野郎の自己紹介

ふう…。

あまりにも濃ゆいクラスメート達に気圧されはしたが、今日は1人ずつ自己紹介して帰るだけだな。

お。

ヒロが自己紹介をする番だな。

ヒロ「ジュンク志中出身、和泉尋。

趣味は儉約と他人をおちよくる事と他人の不幸。

特技は空手、剣道、柔道で、3つ合わせて6段。

現在訳あって1人暮らし。

嫌いなものはエレベーター（何故か乗り物酔いする）とエスカレーター（乗るタイミングがつかめない）以上！」

なんかすごい自己紹介だったな…。

というかコイツ童顔というより女顔だな。

声もソプラノボイスだし。

もし男子校だったらいろいろイケナイ事されるだろうな…ゲフン、ゲフン。

落ち着けー俺、落ち着けー…。俺は男にや興味ない…、興味ないんだ！

と、そんなんしているうちに次はパンダが自己紹介か。ていうかパンダしゃべれないだろうが！

しかし、そんな俺の心配をよそにパンダが自己紹介をし始めた。

パンダ「……………」

…なんかじーっとこっちみているだけなのに、何故かパンダの言いたいことがわかる気がする。

何故だかは知らん！

だがわかったことはこのパンダの名前はかいほ柏原祐司ゆうじというらしい。

趣味はののしられたり、叩かれたりする事。

特技は客寄せパンダ。

Mか!?

Mなのかこのパンダ!?

しかも特技はそのまんまだし!

そもそもなんでパンダが学園に入学できたんだよ!?なんで自己紹介されるだけでこんなに疲れなくてはいけないのだ…。

ぐったりしていると、俺の前の席の男が立ち上がった。

次は俺の番か…。

人間、最初が肝心。

このあいさつのいかんによって、これからの学校生活が薔薇色になるか灰色になるかが決まるのだ!

中学校時代?

そんなもんドドメ色に決まっている!

…自分で言っていて悲しくなってきた…。

自分で勝手にダメージ受けていると前の奴が座った。

よし!

皆、後園克也の晴れ姿をしかと目に焼き付けるがいい!

克也「後園克也: 『こいつの名前はウルモフ大佐だ。』」

つておい!

いきなり遮られたぞ!

みるとヒロのやつがニヤリと笑みを浮かべ、続けた。

ヒロ「こいつは見ての通り、ヤン〇スとアス〇ンを足して、その後

ア〇ランを引いた顔をしているが、根は良い奴だと思う。」

それじゃヤ〇ガスしか残ってないじゃん!

〇スラン入れた意味ないじゃん!

ヒロ「ただ、オタクでロリコンで一般人と変質者のラインを完全にアウトしている人間なので扱いには気をつけるように。」

ねえ、これって新手のいぢめ?

そもそもこれ、俺の自己紹介だよね?

なんで昨日会ったばかりの人間にここまで言われなくちゃいけない

変態野郎の自己紹介（後書き）

克也…ドンマイ！（笑）

でも良いんです、克也だし（酷！）

あと感想、ご指摘、レビュー等お待ちしております。

変態野郎の登場人物紹介（前書き）

とりあえずここら辺で簡単な登場人物紹介をと。
あと、暁学園の説明も入れときます。

変態野郎の登場人物紹介

名前 後園克也

年齢 16 (見た目40)

身長 185

体重 108

握力 右 90 左 85

家族構成 父 母 姉

好きなもの ロリっ子 ゲーム(エロゲ)

苦手なもの 姉 熟女 ロリっ子の保護者

好きな食べ物 ダイジリン 紅茶

後園克也人生録

1994年 5月17日生まれる。

お産婆さん、顔がわいせつ物との名言残す。

1997年 ヤモリ幼稚園に入園。

入園初日から同級生のパンツを盗み、袋叩きにあつ。

1999年 恐怖の大王は克也に会うことを嫌がり現れなかった事
実発覚。

2001年 トカゲ小学校入学。

初恋の相手、時風由美子に露骨に嫌がられる。

2003年 18禁のパソゲを初めて1人で買うも咎められず、複
雑な気分。

2007年 爬虫類中学校入学。

この頃から小学校に頻繁に侵入する癖始まる。

2008年 ストーリーキングによるわいせつ物陳列罪で捕まる。
以後、常習犯に。

2010年 私立暁学園入学。

FOREVER

本編の主人公。

特徴としてフケ面、ロリコン、変態がある。

顔はヤンΟΣとア○ランを足して、アス○ンを引いた感じ。

性格はフ○ヒレと○原を足して5倍にして2乗にしたような感じ。

主人公ながら鈍感スキルなどの主人公補正を持たず、脇役の特徴溢
れる男。

基本的に悲惨な扱いを受けるがそのほとんどが自業自得なので同情
の余地はない。

作者曰わく幸せになつてはいけないキャラクター。
相手の背後を取る、STEP AND GO!という技を持つが、
相手の背後を取るだけなのでうつつとうしい以上の効果はない。

追記 右手が常にイカ臭い。

名前 和泉尋

年齢 15 (見た目12)

身長 148 (本人は150と言い張る。)

体重 36

握力 右 28 左 24

家族構成 祖父 祖母 父母 兄 妹×3

好きなもの 他人の不幸 節約 小説 動物 自然

嫌いなもの 変態 Hな事 金儲けを邪魔する人間 エレベーター
エスカレーター エアコン 女装させられる事 姐さん(嫌いとい
うか頭が上がらない。姐さんについては後述)

この作品のもう1人の主人公。
というか、狂言回しのキャラクター。

克也と違って主人公補正の恩恵を存分に受けたキャラクター。
女の子のような顔をしていて、俗に言う男の娘にあたる。特に誰も
気にしてはいないが、月に2〜3日機嫌の悪い日があり、高い運動

神経を持ちながらも体育の授業は必ず休む。

男女問わずモテるが、鈍感なので気づかないお約束なキャラクター。また、訳あって1人暮らしをしており、非常に貧乏。

それ故に常に節約をする事が癖になっており、非常にみみっちい。

また、非常識なほどの方向音痴であり、学校に来るさいも、2、3時間迷う事を前提に登校している。

私立暁学園

日本有数のバカ高校。

というか、日本一のバカ高校。

あまりにもバカ過ぎて、入学試験を受けただけで合格するとも言われる。(面接なし)

日本中からバカが集まり、バカ(アホ)のオリンピックとも言われる。

また、入社試験にて、暁学園出身というだけで落とす会社も多いと言われる。

なお、部活動もあまり盛んとはいええず、野球部は10人となんとか試合ができるが、サッカー部は7人しかおらず、しかも何故かキーパーが2人いる。

ただし、理由は不明だが毎年必ず全国トップクラスの成績優秀者が入ってくるという不思議な現象も起きている。

変態野郎の登場人物紹介（後書き）

何か不備があればお教え下さい。

変態野郎のパートナー（前書き）

申し訳ございません！

この小説、作者の他の小説と同じくアドリブのみで書いているのですが、天使ネタが降りてこず、投稿するのが大変遅れました！

作者、こういうことがたまーにあるんです。

以前にも、モバゲータウンではほぼ毎日投稿してた小説を半月くらい投稿できなかつたり…。

よーするに、軽いスランプ状態になっちゃったんです。

読者の皆様にご迷惑をおかけしました。

ゴメンナサイです！

変態野郎のパートナー

今日はもう学校終わりか…。

やっと家に帰れるな…。

異常すぎだよこの学校…。

お、自転車置き場が見えてきた。

俺は自分の愛車のコイツにTROUBLEトロンブルと名付けている。

ネタ？パクリ？

それがどーした！

俺は俺の道を行く！

ガササツ！

！？

ゾクツ…。

なんだ！？

今、その茂みが不自然にざわめいたと同時に、物凄く嫌な予感がしたぞ…。

こういう時は三十六計逃げるにしかず！

さっさと帰ろう！

克也「パイオーダー・オン！」

俺の譲れぬこだわりの1つが、自分の愛車にまたがる時はこのかけ声を上げる事。

もちろん『またパクリかよ！』というツッコミは受け付けない。

…そもそもネタが古すぎて、分かる読者がいるかいささか不明ではあるがな。

とにかく面倒に巻き込まれないうちにさっさと帰るか。

ヒロ「ウルモフ大佐みーっけ！」

天は我を見放した…。ヒロ「ふー…。

ウルモフ大佐帰ったかと思ったよ…。

でもウルモフ大佐の匂いがこっちからしたからすぐに見つけられた。

」

匂いつて…？

克也「ちなみに俺の匂いとはどんなのだ？」

ヒロ「イカ臭い匂い。」

生々しい匂いですな…。

だいたいの原因は分かるけど。

ヒロ「俺の嗅覚と聴覚は犬並みだからね。

探し物はかなり得意なんだ。」

もはや人間でないなコイツ…。

克也「で、俺に何の用だ？」

面倒な事に巻き込まれないうちにさっさと帰ってアニメ観たいんだ
っーの！

ヒロ「ああ、ウルモフ大佐にパートナーが必要かなと思って。」

克也「パートナー？」

ヒロ「うみゆ。」

ウルモフ大佐ともなると、背中を任せられるパートナーが必要と判断した。

だからその人員を用意したんだ。」

だからウルモフ大佐ってのはお前が勝手に付けたんだろーが！

ヒロ「これがウルモフ大佐のパートナーのアライグマのオスカル君だ！」

克也「俺のパートナーって人間ですら無いのか…。」

ヒロ「当たり前だ。」

悪魔だコイツ…。

ヒロ「さあ、オスカル君。」

君のパートナーにあいさつするんだ。」

アライグマにあいさつもクソも…。

オスカル「初めてお目にかかる。

私の名はオスカル。

コードネームはゼニア・オナトツプ。

特技はレイピアで、趣味はクラシック鑑賞。

私のパートナーにはアドレというあだ名をつけるのだが、君にはその名は余り合わないようだ（顔の造形的に）。だから私からは大佐と呼ばせてもらう。」

…アライグマがしゃべった!?

克也「ヒロよ…」。

アライグマがしゃべる事実について詳しい説明を要求する。」

ヒロ「オスカル君は実は女性^{メス}だけど、普段から男性^{オス}のふりをしてるから、襲っちゃダメだぞ」

克也「質問に答えろ！」

動物に欲情する趣味はないやいつ!

ヒロ「そんなん決まってるじゃないか。」

克也「決まってるとは?」

ヒロ「小説だから。」

克也「さいですか。…」

なんか無理やり納得させられた…。

変態野郎のパートナー（後書き）

近々、てんかれっ！とのコラボ小説書くつもりです。
興味のある方はご一読下さい。

特別企画！てんかれっ！あーんどF U K E Z U R A H i S c h o o l T i m e

予告どおり書きました。

パラレルワールドですから続きません。

でも、作者の気まぐれや読者からの要望あれば続き書きます。

キャラクター説明

早乙女祐介

てんかれっ！の主人公。

元々女の子のような可愛らしい容姿をしていたが、兄の達也によって幼女（外見年齢6〜7歳）にされた。

基本的には礼儀正しい性格をしており、作中随一の常識人だが、度を過ぎた変態などには容赦ない制裁を加える。

神の愛し子（後述）

早乙女達也

祐介の兄。

てんかれっ！の中の裏主人公。

見た目麗しく、頭脳明晰、運動神経抜群と完璧超人だが、性格が残念過ぎる人。

祐介を幼女にした張本人で、ブラコン改めシスコンになった。

また、キングオブ・ロリコンであり、美幼女を見かけると人としての安全装置が外れるので、度々祐介に制裁を受けるが、大抵2秒で復活する。

彼も神の愛し子である。

用語

神の愛し子

てんかれっ！の世界では魔法はごく、一般的であり、誰でも使う事ができる。

しかし、魔力には限界値があり、限界以上の魔力を持つ事は出来ない。

しかし、10億人に1人の割合で、その限界値を持たない人種が生まれる事がある。

それを神の愛し子といい、魔法関連において絶対なる権力をもつ。

祐介と達也は、世にも珍しい神の愛し子の兄弟であるが、下手に注目されたり、狙われたりせぬよう、人々からその記憶を消している。今日も元気だ息子が固い。

いきなり下ネタかよ！とゆるッコミは受け付けない。

何しろ何時もの事だからだ。

んで、なんでそんなにテンション高いかとゆーと、今回交換留学生がうちのクラスに来たのだ。

普段の俺ならば『ふーん…、そーなのかー』ですますのだが、今回だけは事情が違った。

いや、ご本人が来るまではそんな感じだったのだが、その姿を見た瞬間俺は目を奪われた。

留学生の少女「青空学園から来ました早乙女祐介と申します。わずか1ヶ月という短い間ではありますが、どうぞよろしくお願ひします。」

その少女はどう見ても6〜7歳にしか見えないし、名前がどう考えても男みたいだ。

しかし、そんなこたあどーでもいい！

あどけなさの残るくりくりした容姿！

舌っ足らずな声！

愛らしいしぐさ！

完璧だ…。

完璧な、俺の理想の少女がここにいる！

これは運命だな！

きっと俺と祐介ちゃんは結ばれる運命なんだ（肉体的に）！

克也「祐介さんは俺の嫁ー！！！」

俺は飛んだ。

某、大泥棒の三代目のごとく。

だが…。

ヒロ「ちつたあ自重しろ！」

ゲシッ！

祐介「俺は男だ！」

バキィッ！

謎の男「ゆーちゃんには指一本触れさせん！」

ビゴオオオオオン！！！！

速攻で3方向から攻撃された。

ていうか最後の謎の男、目からビーム出してたぞ…。

ヒロ「大丈夫祐介ちゃん？」

世の善悪のロリコンはたった今滅ぼしたから安心して。」

何故か後ろで謎の男が『グハアッ!』とか言っただダメージを受けていた。

祐介「あ…ありがとうございます！」

とても…とても怖かったです！

あの…失礼ですがお名前は…？」

ヒロ「おっとこれは失礼。

俺の名前は和泉尋。

ヒロって呼んでくれ。」

祐介「よろしくですヒロさん！」

ヒロ「ああよろしく…。

ところでさっきから気になってしょうがなかったんだが…、そちらさんはどちらさま？」

そう、さっき目からビーム出してた奴だ。

祐介「ああ…コイツはオレの愚兄の『早乙女達也だ！

よろしく頼む!』」

人のセリフに被せるな!」

ヒロ「お兄さん…ですか…。」

祐介「うみゆ。

誠に遺憾ながら血の繋がった、正真正銘の兄弟だ。」

ヒロ「兄妹じゃなくて？」

祐介「さつきも言いましたけど、元々俺は男です！

愚兄のせいでこんな姿になっただけです！」

ヒロ「達也さんって一体何者…？」

達也「それよりも俺は君とお近づきになりたいかな。（キラン）」

ヒロ「あ、俺男だから。」

祐介・達也「なんですと!?!」

ヒロ「なんで祐介ちゃんまで!?!」

いや…ヒロよ…。

無理ないぞ…。

ヒロ「というか、なんでお兄さんが？」

「

確かに疑問だ。

というか、俺いつまでモノローグ役？

達也「俺がいるのはゆーちゃんにコイツ（克也）みたいな悪い虫がつかないようにだ。」

祐介「こいつが最も危険なんだけどな…。」

ヒロ「妹思いのいいお兄ちゃんじゃないの？」

祐介「だから男です！」

達也「よくぞ言ってくれた、俺はゆうちゃんのこと……（中略）……
……で、あるからして……（後略）……っていつくらいゆうちゃん
の事が心配なんだ！」

ヒロ（ヒソヒソ・・・ねえ祐介ちゃんのお兄ちゃんひよとしてロリ
コン？）

祐介（ヒソヒソ・・・ひよっとしなくてもロリコンです……。
オマケにブラコンというか……。）

達也「今の俺はシスコンだぞ？」

ヒロ・祐介『うわい！？』

達也「ゆうちゃんとなら禁断の道に足を踏み入れても全く悔いなし
！」

祐介「こっちは大有りだー！」

克也「ふっかあああああつ！……！」

ヒロ「最悪なタイミングで最悪な奴が復活したー！？」

こうして留学生のきた1日はぐだぐだに終わったのだった。

特別企画！てんかれっ！あーんどF U K E Z U R A H i S C H O O L I I I

てんかれっ！サイドにもコラボ小説載せました。
そちらも読んでいただけたらありがたいです。

変態野郎の姉登場！（前書き）

遅くなってすいませんでした。
でも遅くなった割には今回は短いです。

変態野郎の姉登場！

ロリっ娘がいる…。

沢山のロリっ娘が俺の周りで戯れている…。

皆、幸せそうな笑顔で仲良く、元気に、それでいて優雅さを失わずにはしゃいでいる…。

ふと、そのうちの1人が俺に気づいたのかとととと可愛らしい音をたてながら近づいてきた。

ロリっ娘「おにいちゃんもいっしょにあそぼーよ。」

ぐはぁ！

天国か！？

ここは天国なのか！？

ロリっ娘が俺に懐いてる！？

しかも周りには地獄の番人（別名、保護者）もいない！

ありがとう！

生まれてきてくれてありがとう！

天国の父と母よ）生きています。（克也は今、大人への階段を登

ります！

克也「それで…ハアハア…何して…ハアハア…遊ぶ？お嬢ちゃん？
…ハアハア…。」

最初は優しくするからね？

ロリっ娘「えっ…と…。」

ちゅーしんぐらのてんちゅー「っっ」！

はい？

ロリっ娘「じゃあいくね！

との！てんちゅーでござる！」

ていうか俺、吉良義央役？

ロリっ娘が巨大な200t・と書いてあるハンマーを振りかぶる。

ロリっ娘「かくっー！」

ギヤアアアア！

克也「ハッ…！」

夢か…。

残念なような、安心したような…。

…ん？

目の前が急に真っ暗に…？

って、なんか凄いスピードで突っ込んでくる！

ズガアアアアアーン！！！！

…危ないところだった…。

あと、0・3秒…いや、0・2秒遅れていたら直撃してた…。

って、なんで起きていきなりこんな目にあわなくちゃいかんのだ！

？「ちつ…。

外したか…。」

なにやら女の人がハンマーを下ろしていた。

克也「何をしておいでですか？

姉上殿？」

その女の名前は後園さおり（19）。

バリバリの大学一年生だ。

俺と違ってかなり可愛らしい顔をしているが、巨乳なので、俺の守備範囲外。

だが、かなり破天荒な性格をしており、可愛いものが大好きだ。

そして、全く可愛くない俺を嫌っている。

ちなみに処女おとめの鉄壁カーテンという組織に入っているらしい。

さおり「いやなに、学校に遅刻しそうな弟殿を起こしてやるうかと
思ってたな。」

起きるところか永遠に寝てしまいそうなんですけど…。

さおり「大丈夫だ。」

こういったギャグ作品の主人公は大抵死なない。」

人の心を読むな！

さおり「だから貴様はなにやっても死なない。（死ねない）

だから安心してくらえ。」

その後、後園家にて、『ぷちっ』っという音がしたとかしなかった
とか…。

変態野郎の姉登場！（後書き）

次回は作者の小説で必ずでるあの人が出てきます。

変態野郎の学園長（前書き）

大変お待たせ致しました！

まあ、待っていた人が居たかどうかはわかりませんが、とにかく更新致しました。

変態野郎の学園長

十六夜「今から君達には殺戮をしてもらう！」

克也「なんでだよ！！！」

のっけから訳わからんボケとツッコミの応酬をしているが、今現在は全校朝礼の真っ最中だ。

長らく放浪の旅に出ていた我が学園の学園長がいきなり帰って来たというので、急ぎよ全校朝礼が開かれたのだ。

最初に自己紹介として、

十六夜「私が暁学園学園長、みやのこうじ宮小路いせよ十六夜である！」

などと、どこぞの塾長みたいな自己紹介を絶世の美少女がしゃがった。

うむ、たしかに誰もが認める絶世の美少女だ。

道を歩けば100人中99人が振り返り、惚れてしまうであろう美貌ではある。

だが、残りの1人、いわば残りの1%であるわれらがロリコン幼女愛好者に

は通用せん！

とか思っていると、冒頭のセリフに繋がる訳だ。
十六夜「うるせーぞ、そのオッサン。」

克也「教育者にあるまじき発言！？」

つーか誰がオッサンだ！

俺はまだ15歳だ！」

ピキイイイン…。

瞬間、この場の空気が凍った。

え？

なにゆえ？

みると全校生徒が信じられんといった顔でこちらを見ていた。

克也「ちよっつと待て…。

なんでクラスの奴らまでそんな顔するんだよ！？」

おいこらヒロ！

戸籍所に電話したりすんじゃねえ！！！」

こいつらは…俺を何だと思っているんだ？

ヒロ「ろりろりおやぢ？」

克也「じゃかあしいわっ！

っ！か勝手に人の心を読むな！」

こいつ…相変わらずデフォルトに毒舌というか、なんというか…。

十六夜「そこ！

私を無視して話を続けるな！」

…ゴホン。

今から君達にはその、ろりろりおやぢを血祭りに上げてもらう。」

え！？

標的、俺？

克也「なんで俺にいきなり矛先を向けるんだよ！」

だがやつは胸を張ってここの答えやがった。

十六夜「何を言う。」

いきなりなんかではなく、最初からターゲットはお前だ！」

克也「威張って言うことかああああ！！！！」十六夜「人生にはあきらめも大切なのだよ。」

克也「人生そのものを諦めろってか！？」

いったいどこまで鬼畜なんだよこの人は！！！！

十六夜「いーじゃん命のひとつやふたつ。ケチくさいなあ。」

克也「ひとつしかねーんだよ！！！！」

なんつー事を言ってくれるんだコイツは…。

十六夜「でもみんな、あなたの事を血祭りにあげるのにはなんの躊躇もないみたいだよ。」

克也「え？」

そこには、いきり立った全校生徒（コマンダー、ヒロ）が今にも襲いかからんとしていた。

克也「な…なにゆえ？」

十六夜「社会のゴミを掃除するためでしょ。」

克也「しゃ…社会のゴミって…。」

ぐびるぎゅぬりをえっ！！！？」

十六夜「社会のゴミは断末魔の叫びまで豚のようだな。」

…本当に…どこまで…鬼畜なんだ…この人は…。

変態野郎の学園長（後書き）

十六夜はいわゆるチートキャラです。

はっきり言って、チート過ぎるので出番は少なめだったり。

感想、ご指摘、レビュー何でもお待ちしております！

追伸 なんか感想を書ける人がユーザーに限定されていた事に最近気づいたので、完全フリーに解禁しました。（他作品も）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7294j/>

F U K E Z U R A H i S c h o o l ! 変態野郎目黙示録

2010年10月10日05時03分発行